



各地でオリエンテーリングイベントの仕掛け人が一堂に集まったフォーラムとなった。

2012年5月3日(祝) 広島県庄原市  
O-Forum

全日本の前日のスプリントイベントの後、休暇村帝釈峡にて、日本オリエンテーリング協会主催の O-forum2012 が開かれた。

今回のテーマは「魅力あるイベントの作り方」。オリエンテーリング人口が右肩下がりと言われて久しいが、その一方で、各地で開催されるロゲイニングイベントには多くの初心者が参入している。クラブ7人リレーや全日本リレーも相変わらずの人気だ。何が彼らを引き寄せるのだろうか。それをヒントとして、もっと魅力あるオリエンテーリング大会ができないだろうか。そんな思いがこのテーマの背後にはある。

スピーカーは木村佳司と村越真、いずれもそれぞれの地域を中心としてオリエンテーリングからロゲイニング、トレランまで幅広くイベントを開催している、いわばイベントプロデュースのエキスパートだ。

まず木村は、魅力あるイベントのポイントが物語性、そして自らが楽しいと思えるイベントだという。それが参加者を引き寄せ、満足につながるという。彼が昨年開催した松本をベースとしたいくつかの事例を紹介しながら具体的なヒントに満ちた内容が紹介された。

村越は、心理学やまちづくりを研究した経験を元に、魅力を生み出す構造やそれを感じる人間の心理の理論的な背景に触れた後、最近開かれた奥武蔵ロゲイニングの生の参加者の声を参考

に、ロゲイニングが初級者を惹きつけるポイントとして「チームワーク」「戦略性」「達成感・満足感」「自由度の高さ」「ナビゲーション」「アフターの楽しみ」というキーワードを挙げた。

その後、それらの視点からオリエンテーリング大会の特徴と改善/さらに魅力的にする方策を考えるワークショップが行われた。

チームワークといえば、一般にはリレーが真っ先に思い浮かぶ。しかしそれ以外にも様々な工夫が可能なはずだ。たとえば、ライバルとの競り合いも、そこから刺激的なレースを味わうことができるという点で一つの「チームワーク」と言えないだろうか。そう考えればマスタートロングなどは、チームワークを感じることでできるまたとないイベントなのだ。

またアフターの楽しみにしても、ルート解説や反省会などスポーツとして本質的なものから、会場での飲食や付近の名所めぐりのような付加的なものまで様々なものが考えられる。こうした広い視野を持つことが魅力あるイベントづくりにおいて大切だということを改めて痛感できたフォーラムであった。



ワークショップで、キーワードを元に討論する参加者

(村越 真)



O-Forumの直前に、同じ休暇村帝釈峡で行われたスプリントオリエンテーリングを走る藤島氏。このあとO-Forumにも参加。こうしたイベントとのコラボ効果で、予想を超える参加者がO-Forumに参加いただけた。